



関東や関西でご活躍されている熊本県出身や熊本にゆかりのある経済界の皆様から届いた、熊本への想いや提言などを掲載して好評いただいている「ふるさとへの便り」。

今回は、熊本市出身で、現在は日本製紙株式会社代表取締役会長として、ご活躍されている芳賀義雄さんが寄稿してくださいました。

「ふるさと復興への想い」

熊本地震で被災された方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興と平安の日々がおとずれますことをお祈りいたしております。

私は昭和24年、家の二階から熊本城が望める熊本寺原(現在の中央区壺川一丁目)で生まれました。その後父親の仕事の関係上、小学三年の時から中学一年まで熊本市を離れ水俣、阿蘇宮地、天草本渡と県内を転々としました。当時はまだまだモノが十分でなくテレビや洗濯機といった電化製品も珍しい時代だったと思いますが、熊本の碧き海と青き山の豊かな自然に抱かれ、また熱か友達にも恵まれ伸び伸びと過ごした少年時代でした。

災害といえば、幼いころ熊本市を襲った二度にわたる大水害で白川が氾濫し多くの

人々が亡くなられ、実家も天井まで浸水し私自身も親に背負われて京町の高台へ命からがら避難した記憶が今も鮮明に刻まれています。

また、今回の地震で阿蘇神社の歴史のある建造物が倒壊している映像を見るにつけ心が痛みます。阿蘇宮地に住んでいたころ、あの楼門前の子供心に広くて長い参道で父親に自転車の荷台を押ししてもらいながら自転車乗りの練習をしたこと、夏は冷たく冬は温かい年中こんこんと豊富に湧き出る水で家事をしていた母親の姿、今も忘れられません。

高校は熊本高校でしたが、あまり勉強をしたという記憶は残っていませんが、体育授業の剣道で、腋の下を竹刀でたたかれた時の痛さや防具の独特の汗臭さが時々思い出されます。

その後、熊本大学・大学院に進み昭和49年に十條製紙株式会社(現在の日本製紙)に入社しました。入社の際には八代市に工場があり社会人になっても熊本とのかかわりを持ち続けていたのだらうと思えます。技術者としてスタートしましたが、研究、ドイツ駐在、工場長、経営企画などを経て平成20年社長、平成26年会長を務めさせて頂いています。

社長在任中、東日本大震災の津波により甚大な被害を受けた石巻工場を、社員一丸となって必死の思いで復興に取り組んだことは感慨深いものがあります。

当社八代工場では、新聞用紙やコピー用紙などを生産しています。会社として暮らす文化に貢献し熊本の発展のお役に立てるよう、みなさんのご支援をいただきながら今後とも頑張っていきたいと思っております。

はがき
よしお
芳賀義雄さん
(熊本市生まれ)

今月の送信者



日本製紙株式会社 代表取締役会長

経歴

昭和24年12月 熊本県熊本市生まれ
昭和49年 4月 十條製紙株式会社入社
平成16年 6月 日本製紙株式会社 取締役
平成18年 4月 同社 常務取締役企画本部長
平成20年 6月 同社 代表取締役社長
平成26年 6月 同社 代表取締役会長

会社概要

社名：日本製紙株式会社
(にっぽんせいしかぶしきがいしゃ)
設立：1949年(昭和24年)8月1日
所在地：東京都千代田区神田駿河台4-6
資本金：1,048億73百万円
年商：1兆70億97百万円(2016年3月期)
社員数：11,741人(2016年3月期)
事業内容：紙・パルプ・化成産品・液体用紙容器の製造及び販売、エネルギー(電力)供給の事業を展開。また、新素材「セルロースナノファイバー」の開発・実用化にも注力。
URL：<http://www.nipponpapergroup.com/>



▲大学時代、熊本大学にて
(最前列右から3人目が芳賀氏)